渡辺土建

山林保全で200本植樹

地元小学生らが参加

渡辺土建（登米市　渡辺光太郎代表取締役）は津山町森林組合（登米市）の植林活動に協力し、２日に登米市内の山林で植樹祭を行った。同社の従業員とともに小学生らが参加し、スギの苗木を植える体験を楽しんだ。

同社は２００５年から自然環境の保全・育成に取り組み、市内の山林に毎年苗木を植樹している。ことしは初めて、従業員以外の参加を呼び掛けたところ、津山小学校の児童と保護者、教職員が活動に加わった。

スギの苗木を丁寧に植える小学生ら

植樹した場所は、津山町森林組合が登米市から借り受けて管理している同市津山町柳津の山林。同社の従業員と参加者約20人は、同森林組合森林整備課の佐々木寿光課長から指導を受けながら、ゆっくりと植樹する斜面に入った。用意された花粉の少ないスギの苗木２００本が分配されると、参加者らは鍬で穴を掘って苗木を入れ、丁寧に土をかぶせた。

前日まで降った雨はすでに斜面を流れ落ち、参加者らは薫風に包まれながら見晴らしの良い山の体験を楽しんだ。初めて鍬を手にした小学生たちも、狙った場所に刃を振り下ろし、土の感触を味わった。その姿を見守った渡辺代表は「山林に入って植樹する経験は、あまりできないこと。当社の社会奉仕活動を通じて、お子さんたちにはゴールデンウィークの楽しい思い出にしてほしい」と話し、相好を崩した。